

環境カウンセラーちば

第56号
特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省により認定された環境に関する専門家です。
地球温暖化対策、廃棄物対策、環境教育・環境学習、環境経営など、お気軽にご相談下さい。

「台風15号・19号・21号豪雨被災からの教訓と私たちにできること」

理事長 吉田昌弘

千葉県に大きな被害もたらした台風15号・台風19号、更に追い打ちをかけた21号豪雨と、東日本の広域にわたる未曾有の災害（停電、断水、風水害、浸水等）が発生しました。EC千葉会員の中にも被災された方、また、身内で被災された方もいらっしゃるのではないかと思います。

被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

今回のように、日本付近までやってきた大型台風が、その海域でより急速に強化され猛烈な台風に発達する程、海水温の高い海域が近海に広がっていて、私たちが考えている以上に地球温暖化が進んでいることの現れであり、今後このような、あるいはこれ以上の台風の襲来がありえると覚悟しなければならない程の状況を招いています。

いままで、異常気象と思われていたことが、想定外でなくなり、いつ起きても不思議ではない程、恒常化しつつある気候変動（Climate Change）、もはや喫緊の課題としてその対策へ取り組む必要に迫られております。今回の多くの被災状況に鑑み、私たち千葉県においても、地元自治体や行政機関、また、教育機関も含めた地球温暖化防止対策も抜本的な見直しを迫られていると感じます。

ニューヨークで開催された国連気候行動サミットで、環境活動家として世界中で注目を集めている16歳のグレタ・トゥーンベリさんが訴えているように、〈今、温暖化防止対策を考えてと言われる私たち大人は、これからの地球で生きていく未来世代の事を本当に考えて行動しているのか〉との問いに答えていく義務があるのではないかと思います。

大災害が起こりうるであろうと想定されるこの地球環境を、未来世代に残して良いはずはありません。

既に皆さんにも被災状況の提供をお願いし、その対策状況や今後への教訓、地球温暖化防止対策への意見などの提案も開始しました。今後のEC千葉の活動の新たな展開への出発点とし、具体的な「行動指針」として、環境カウンセラーとして、皆さんと共に出来る事を実行に移したいとの思いでいます。

私たち大人の行動を次世代の彼らは待っているはずですが、そして、その行動を見えています。

皆さんと共に、出来ることを実行に移して行く番です。

具体的な行動をするにあたり、一部の方だけではなく、未来世代への支援の在り方として会員の総力を挙げた取り組みになることを願っています。それがどんなに大きな力になるかは、今回、日本で行われた「世界ラグビー」でも見せてもらいました。「One for all, All for one」として「ワンチーム」一丸となって目的に向かっていきましょう。

皆さんの協力を切にお願いする次第です。

〔開催報告〕 大多喜町環境教育プログラム

「わくわく探検隊～自然となかよし～」

1. 面白峡小水力発電所の復活事業

2012年3月に千葉県ホームページで、「新エネルギーの導入・既存エネルギーの高度利用に係る当面の推進方策の策定及び重点支援プロジェクトの選定について」の記事で、提案された32件のプロジェクトから選定された5件に「大多喜町面白の小水力発電の既存施設の二次利用」があることに興味をもった。

そこで、2011年7月に開催された「養老川流域懇談会」の議事録を手することができ、「昭和22年ごろまで東京電力が水力発電をしていた施設があり、大多喜町として今、水力発電の跡地を利用して50キロワットぐらいの発電をして公共施設への電気の供給、子どもたちの水力発電の学習施設、また観光の拠点施設になるのではないかと協議を進めている」との事実を知り、再生可能エネルギーの開発・普及が重要な今日、大多喜町の構想にNPO活動として、協力できないかと思った。

やがて新聞報道もされるようになり、2013年3月、大多喜町に訪問し、NPO活動として協力したい旨を申し入れ、まずは見学をお願いし、5月22日、EC千葉とNPO法人サポート技術士センターのメンバー22名が訪問し、事業計画として地球温暖化対策、資源の有効利用、災害時非常用電源確保、観光資源、地域の活性化のために大正から昭和にかけて稼働していた面白峡発電所を復活させることにしたとの説明を受け、すでに着工されている現場を見学した。

面白峡発電所は、養老川の上流、栗又の滝のわずか上流で取水し、現在も水道用水源に利用している既存のトンネル水路（延長2,300m）があるため工事費が安くなり、水量11,000ton/日、落差43.5m、最大発電能力は130kW（平均80kW）の発電所として再レビューするとのことであった。

この見学で、大正時代にどのようにして建設され、発電状況がどうであったかについて、大多喜町にもほとんど記録がないとのことで、探していたところ、2013年8月、EC千葉のメンバーの倉田 智子様から、大多喜町ご出身の遠山 あき様（1917.10.24-2015.10.28）が「養老川雑記」という本を出版されていること教えていただいた。

それには、12、13歳のころ（1928年ごろ）、面白峡発電所のすぐ近くに行った記憶はあるが、それから50年後（1980年ごろ）に調べて、訪ねられたとの記述があった。老川村（現大多喜町面白）の村誌には、起工：大正12年（1923年）4月、竣工：大正15年（1926年）で、工事費35万円で、その名称は「関東配電老川発電所」と記され、取水口は栗又の滝から300m上流、そこから手掘りで掘ったと言われるトンネル水路を経て発電所までは当時も今も変わりはなく、落差約50mの水圧管内で水を流し、2台のフランシス水車で1台の発電機を回して140kWの発電をして、配電地域は地元のみでなく市原の一部までと記され、山深い養老川上流にも文明の光を灯したと述べられている。

その後、大正から昭和へ、戦争のさなかにも発電を続け、火力発電の普及に伴い、昭和35年（1960年）に閉鎖され、放置されているとの情報で、遠山 あき様は、思い立って訪ねられたという。

水を落とす水圧管は当時のまま残っており、発電所の建物はなく、水車や発電機の基礎だけが残っており、発電所を交代で運転する人の宿舍2戸があった跡も確認できたであった。

この本を読んで、遠山 あき様は、96歳とご高齢でありながら、今もお健在であることを知り、いてもたってもおられず、もっといろいろなことを知りたく、ご在住の市原市内のご自宅を訪問した。

面白峡発電所のトンネル水路の手掘りの掘削では、大した道具もなく多くの人が働き、地元の人が協力したことや、ご自身が幼少のころ、老川小学校長などを歴任されたお父上と面白峡発電所の下流にある（旧）老川橋に行って、「静かに流れる養老川の水は、飲み水だけでなく、かんがい、水運、地域の浄化などいろいろ役立ってく

＜面白峡発電所＞

所在地：千葉県夷隅郡大多喜町面白

交通：小湊鉄道・いすみ鉄道

上総中野駅から約5 km

取水・放水：養老川

有効落差：43.5 m 最大出力：130 kW

付近に観光スポット「栗又の滝」がある。

れている、この流れは海に注ぎ、やがて雨になってこの老川に戻ってくる。水の輪廻というありがたいものだ。水は大切にしなければならぬ。」と教わったなどの貴重な生い立ちなどや、戦前は千葉市内で教職を務められ、その後はご主人の実家の農業を勤しむ傍ら、養老川の水利用の歴史などを調べたなどのお話を伺った。

遠山 あき先生は、戊辰戦争で敗残したサムライが養老川の水運の労務者となって地域に溶け込んだことを題材に千葉日報新聞に「流紋」という実話に近い小説を連載され、のちに「小湊鉄道のあけぼの」と名称を変えて市原市制50周年記念誌になったと言われ、その内容は、当時の養老川の様子がよく分かり一読に値すると思う。

そこであらためてNPO活動を志す仲間にぜひ聞かせたいとお願いして、快諾を得て、2013年11月29日に「遠山 あき先生のお話を聞く会」をご自宅近くの公民館を借用し、16名が貴重なお話を伺った。

大正時代からの面白峡発電所をご存知で、養老川の流域の人たちの水運や水利の歴史にも詳しく、ていねいな、お話を伺った。この地域の発電は小湊鉄道の建設工事のため鶴舞に火力発電所、夷隅川上流の宇筒原（大多喜町）などに水力発電所が、できたのがきっかけとのことであった。とくに面白峡発電所の建設、稼働について説明していただいた。「歴史は「…があったこと」も大切だが、「そこに・・・をした人」の存在が重要で、命がけでやった人にたどりつく」と結ばれた。

そのあと、近くにジオパーク候補になりうる自然（今話題の「チバニアン」）があると紹介され、96歳と思えぬ足取りで、地球磁場逆転期の地層をご案内いただき、さらに車に分乗して、面白峡発電所も一緒に行かれ、当時の話も含めてご案内いただいた。

その後、遠山 あき先生は、「面白峡発電所がどう変わるか見たい」と言われ、工事現場に何度かお連れしたが、地元で伝わる地域愛に満ちた悲話を話されたり、「今、エネルギーや食糧が問題になっているが、これからは水問題も出てくるので、水を大切にすることを自分の遺言にしたいので、ぜひ多くの人に伝えて欲しい」と述べられた。遠山 あき先生は、2015年10月、98歳で天寿を全うされたが、地域を生涯愛された偉人と思う。

面白峡発電所は2014年4月に竣工し、最大出力130kW、常時出力35kWで、以来、大多喜町と㈱関電工とのコラボ運営が続けられている。

面白峡発電所への取水は養老川上流で行われているが、かんがい用、浄水場原水、下流の栗又の滝の観光資源として水が必要であり、年間を通じてのその配分が重要な課題である。水力発電の効率アップも重要課題であるが、限られた水資源をいかに最適配分するかの技術的アプローチをNPO活動でお役に立てればと思う。

このように歴史的なロマンに富み、しかも水資源の活用例としては珍しく、多くの方に大多喜町に関心を持ってもらうようにすべく、面白峡発電所のジオラマを製作するなどして、NPO法人サポート技術士センターと協力して県内のイベントに展示をしており、東京の環境カウンセラー協議会からのバスツアーの見学も受け入れ案内してきた。

大多喜町以南の房総半島は、地殻プレートのせり上がりで急峻な地形であり、しかも降雨量が多く、小水力発電に向いており、先人の着目を疑う余地もない。

ただ、小水力発電は経済性が懸念事項であり、技術的成熟度の高い揚水式発電にすれば可能性があると思われ、昨今の再生可能エネルギーで急成長を続けている太陽光発電の昼間の発電電力の活用に利用できると思われる。幸いにも東京湾沿いに富津まで大きな送電網があり、これと南房総に揚水式発電システムを設置し、接続すれば「首都圏のバッテリー」となり得ると夢を広げてみたい。

2. 大多喜町環境教育プログラム～わくわく探検隊～

大多喜町では昔ながらの自然がいっぱいである。春は、桜、緑に続いて、つつじ、秋は紅葉と人工的でない自然が広がっており、忘れられた自然ではない。

地元ではこの風景を変わりのないものと思っている方も多いが、先人が大事に残された自然であることに気づき、これからも環境教育の絶



2019年7月21日 第3回の参加

好の場として残して欲しいものである。

一步、足を踏み入れれば、珍しい生きものや植物が豊富であることにも気づくことは間違いなしである。

このような観点から、大多喜町をはじめ周辺の次世代の子どもたちにこれらの自然を認識してもらい、残してもらうことが重要と考え、2017年から体験型イベントを行うこととし、コアスタッフに志澤 達司様、森川 礼子様と私の3人になることとし、「大多喜町環境教育プログラム～わくわく探検隊～」を開催することとした。

その構成は、養老川につながる支流の外出川上流の水辺での生きもの調べと面白峡発電所の見学とし、対象は大多喜町および周辺の市町の小学校高学年とすることとした。

早速、大多喜町教育委員会の後援も快諾が得られ、面白峡発電所の見学も発電所の管理運営を行う(株)関電工に協力してもらうこととなり、(一財)セブン・イレブン記念財団からも費用の助成が得られることになった。

開催準備に取りかかる中で、うれしかったのは、今は閉校となっている(旧)老川小学校で、教鞭をとりながら、周辺の生きもの調べを行い、授業に活用されたことで文科省大臣表彰も受けられた永島 絹代先生が近くの教育事務所におられることが分り、ご一緒に勤務の渡辺 紀子先生もお誘いになって、イベント開催にご協力いただくことになった。

かくして、「第1回大多喜町環境教育プログラム～わくわく探検隊～」を17名の子ども達の参加で7月16日に無事、楽しく開催することができた。

続いて、翌2018年も、子どもたちの夏休み前の7月8日に開催することとし、生きもの調べの場所の下調べでは大雨のあとの被害の調査中で立ち入ることができず、外出川下流の水辺で行うことにした他は第1回と同様に実施し、当日参加の16名の子ども達に喜んでもらえた。

第2回からは、千葉県生物多様性センターの「生命のにぎわい調査団」に入団し、生きもの調べで調査した結果を報告してアドバイスをいただくことにした。

今年(2019年)も「継続は力なり」と「第3回大多喜町環境教育プログラム～わくわく探検隊～」を、第1回と同様に(一財)セブン・イレブン記念財団から助成を受けて、子どもたちの夏休み前の7月14日に8名の子ども達の参加のもとで開催した。第1回と同じく大きなトンネルをくぐったの場所で生きもの調べを行ったが、同様の生きものを観察でき、定点観察を実感することができた。オリエンテーションで子どもたちに折り紙でかざぐるまを製作してもらい、水力発電の仕組みを理解してもらったあと、面白峡発電所の見学で、(株)関電工の方の説明に子どもたちが大きくなっているのが印象的であった。

第3回の子どもたちの参加が少なかったが、他の行事への参加と重なったことが原因で、次回からは開催案内の方法をさらに改善して、地域に溶け込んだイベントにしていきたいと思う。

大多喜町環境教育プログラム 「わくわく探検隊」～自然となかよし～

第1回 2017年7月16日(日)

第2回 2018年7月8日(日)

第3回 2019年7月21日(日)

主催：環境カウンセラー千葉県協議会
後援：大多喜町教育委員会



平成30年度大多喜町環境教育プログラム



自然観察についての絵を描き、発表する。



面白峡発電所落水管をバックにして

第1回、第2回、第3回の詳しい実施報告はEC千葉ホームページをご覧ください。
なお、2020年7月には第4回の実施を予定しております。

(文責 國廣 隆紀)

〔開催報告〕 2019年度 秋の自然観察会—鵜原理想郷

日 時：9月28日(土) (現地集合・現地解散)

場 所：鵜原理想郷ハイキングコース

集 合：JR外房線・鵜原駅前 12:00

ガイド：勝浦市観光協会 ボランティアガイドの方

費 用：1,000円 (ガイド料、保険料等を含む。)

案 内：太平洋の荒波に浸食されたリアス式海岸、

深い入り江を覆う木々や海岸性植物、そこに生きる生き物、歴史を物語る所も随所にあり、与謝野晶子の歌とともに、ガイドの方の案内が学びと楽しさを倍加してくれそうです。



青く輝いた海と勝浦海中公園、遠くには八幡岬を見ることができます。(勝浦市観光マップ)

秋の自然観察会〈鵜原理想郷〉によせて

台風15号が千葉市に上陸し最大瞬間風速57.5mの風が吹き荒れ、南房総の各地に甚大が被害をもたらした日から2週間余、ボランティアガイド会長の携帯に恐る恐る連絡、“勝浦は大丈夫でしたよ、安心していらしてください”との声が返ってきた。

“ああ良かった！”とほっと胸を撫で下ろし、参加予定者にすぐにその旨を連絡。

9月28日(土) 晴 参加者12名(男性5名、女性7名)、(参加予定のお1人がバスの遅延により電車に乗れず引き返すハプニング有)。

歩き始めるとじわっと汗ばむ程の気候、密かに危惧していた歩道の崩れやぬかるんだ所もなく、ほっと一安心。

本来なら、眺望抜群の景色を眺めながらおにぎりなどを食べゆっくりとしたコース。更に、疲れの出やすい帰り道にこそ、それぞれのペースで歩ける時間を残してあげることが出来ずに1時間に1本の電車にせかされるように降りた帰り道。

その時々いただいたボランティア会長の心遣い、そしてみなさんの笑顔に助けていただいた一日、お一人の怪我もなく帰途に就くことができたことに心から感謝しております。

願わくは、このすばらしい眺望・歴史・植生を、より多くの方々と共有出来たらよかったとの感慨が残ります。次の機会にお待ちしております。

参加されたお二人が思い思いの感想を寄稿くださいました、ぜひ、ご一読ください。(環境学習センター 佐藤ミヤ子)



手弱女平で記念写真

畏敬の念を覚えた自然観察会

綿貫 沢

9月28日(土)、晴天の下、勝浦市の鵜原理想郷に於いて開催された自然観察会に参加しました。私にとって、EC千葉主催の自然観察会の参加は、初めての体験であり、何回かの自然観察会には参加していますが、海岸歩きを観察会も初体験でありました。

12名の参加者は、途中で2班に分かれ、それぞれのグループに勝浦市観光ボランティアガイドさんが2名ずつ同行しました。私は、始めに山道を登るグループに所属し、ハイキングコースに歩を進めました。蛇紋岩を削ったトンネルをくぐり抜け、急峻な坂道を登ると一瞬にして眺望が開く場所にたどり着きました。

眼下に広がる紺碧の海原、リアス式海岸に砕け散る太平洋の荒波、浸食されてできた海食崖、息をのむ数々の展望はまさに独り占め、貸切り状態でした。この場所は、肌がつるつるの美人を表すという手弱女平(たおやめだいら)。鐘を鳴らして幸せを念じました。途中、これから赤い花が咲くヤブツバキの群生林が広がりに、植林されたヤマザクラ

が道の両側に立って我々を歓迎してくれました。

一方、鵜原理想郷は歴史的にも意義深く、太平洋戦争末期、敗戦濃厚の最中、上陸して来るアメリカ軍を防衛するための痕跡が残っていました。すなわち、魚雷をはじめとした船舶を隠蔽するために人工的に掘った洞窟、軍人の通り道としてトンネルがあちこちに現存しています。トンネルは、天井が低く、暗く足元が覚束きません。壁にはツルハシの跡がくっきりと残っていて、当時の様子が偲ばれます。

そして、名勝ポイントの中で最高点にある黄昏の丘で合流し、記念撮影、ボランティアから差し出された冷たいお茶は一本の清涼剤になりました。帰り道にふと道端に目をやるとオレンジ色の山百合が私も忘れないでねとひっそりと咲いていました。やがて、港の近くに見覚えのある建物がとびこんできました。なんと「青海小学校」ではありませんか。15年位前に訪問したことを想起しました。現在は、5年前に少子化により廃校となり、108年の歴史に幕を閉じたようです。

さて、土産話を紹介しましょう。黒潮つながりで『勝浦』についてボランティアの方に質問したところ、毎年2月から3月にかけて開催される「かつうらビックひな祭り」のルーツは、徳島県の勝浦町から7千体のひな人形を里子として譲り受けて始まったものだそうです。今年も千葉県勝浦市では約3万体のひな人形が展示され、遠見岬（とみさき）神社の石段一面におよそ1800体の人形が飾られているのは、有名です。なお、全国勝浦ネットワークは、地名に因んで千葉県勝浦市・徳島県勝浦町・和歌山県那智勝浦市で構成され、交流を図っています。

理事長始め参加者12名は皆、各々一人ひとり自分なりに得たもの、学んだもの、思い出に刻んだものは違えども満足して家路についたことでしょう。私自身については、この自然観察会を通して、自然保護より人間の手を加えた自然保全の大切さを改めて認識しました。

最後に、勝浦市観光ボランティアガイドの皆様、そしてこの企画に奔走なされた我がEC千葉の佐藤ミヤコ様に深く感謝申し上げます。

鵜原理想郷 自然観察会に参加して

坂本 充子

環境学習センター主催の鵜原理想郷自然観察会に9月28日に初めて参加した。

台風15号の被害が心配だったが「どうぞお越してください」ということでJR鵜原駅に降り立った。今回の台風で停電の被害もなかったとの事でした。

天気にもめぐまれ、12名が二手に分かれそれぞれボランティアガイドの方を先頭にいざスタート。

かねてより「理想郷」の名称に？をもっていたら早速「後藤 杉久」の碑があり別荘地として開発された歴史を知り納得した。蛇紋岩の手掘りのトンネルを通り石の急斜面の上りに突入した。思いのほか足元に注意が必要だ。遊歩道の周囲の木々は所々に植栽があつたが原生林に近いという。伐採には許可が必要とか。海の恵みを守るためと聞いた。鵜原で水揚げされる魚、イセエビ、サザエと考えれば納得がいく。

手弱女平に出ると太平洋の穏やかな海原が広がり入り組んだ海岸線が見渡せる。感謝を込めて「幸せの鐘」を鳴らす。海の色はあくまでも青いが色は七色に変わると言う。問題になっているマイクロプラスチックなんて嘘のようだ。「黄昏の丘」でグループが合流して記念撮影後ガイドさん持参の冷たい麦茶をいただいた。乾いた喉と汗ばんだ身体に染み渡る。

鵜原湾に出ると海水浴場が左手に見える。山の上にそそり立つホテルが圧巻。下から見たのは初めてだ。ボランティアガイドの方の案内は「きれいな景色」だけでない鵜原の様々な事に触れられ収穫でした。台風の後にも関わらず遊歩道の周囲にレジ袋やごみがなかったのは感激した。

「人の生活」と「海のきれい」を共存していくのはこれからも大きな問題だ。私たちに日々の生活スタイルの見直しを迫る。

心残りが一つだけある。与謝野晶子の歌碑に出会わなかったことだ。次回のお楽しみに取っておくとする。

最後に、環境学習センターとボランティアガイドの方々に有意義な時間をいただき感謝します。

南房総エコネットとの丸山川生きものしらべ 事始め

今年で9回を迎えたNPO法人南房総エコネットの「丸山川子どもたちによる水辺の生きもの観察会」とEC千葉との出会いは2011年(平成23年)の生物多様性研究会の丸山川自然観察会でした。

その日は、河口から中流の農業用の安房中央ダム、そして源流部の日本酪農発祥の地・嶺岡酪農の里までの約13kmを真夏日の8月4日に観察する強行軍でした。おばさんとおじさんだけの我々7人が源流部の酪農の里に到着すると、大勢の子供達の集団がいて、我々も仲間に入れて貰った記憶があります。その日の調査結果は県に報告をしました。

南房総市とは環境市民大学への講師派遣でのおつきあいがありました。その年の9月に会員の鈴木優子さんが「生物多様性と川の自然しらべ」の講座を担当したのがキッカケで、翌年の第2回よりEC千葉が協力をする関係がスタートしました。NPO南房総エコネットは、その環境市民大学卒業生が主体となって始まったと聞いています。豊かな自然の南房総の養蜂見学設定やゴーヤの種の供給などで深い繋がりがあります。

(生物多様性研究会 見並勝佳)

第9回子どもたちによる水辺の生きもの観察会の実施報告

NPO法人南房総エコネット 理事長 前川鎮男

8月4日(日)、第9回子どもたちによる水辺の生きもの観察会が丸山川上流の千葉県酪農の里付近で開催された。連日の猛暑、この日も朝から強い陽ざしが射していた。9時半くらいから次々と親子連れが集まってくださり、開始時間の10時を過ぎてもまだ受付が終了しなかった。結局、参加者は子ども31人、大人31人、スタッフ8人の計70人に達した。

10時過ぎ、先ず当日の進行手順を説明、諸注意として「川で転んで怪我のないように・・・」「熱中症に気をつけて・・・」と訴えた。

その後川に移動して川の状況調べを行った結果、水温は25℃、川幅は3m、水深は10cm、流速は30cm/s、透明度は+30cmであった。

「じゃあ、川に入っていいですよ」の合図で子どもたちは元気よく川に入り、保護者と一緒に思い思いの場所で生きものを追った。子どもたちは「いた、いたあ」「オタマジャクシに逃げられた」「カエルを捕まえた」など、声を上げながら夢中になって生きものを追った。

10時50分、「生きものを捕まえるのはこれで終了です」との声で、子どもたちは川を後にして生きものが入ったバケツを持ち寄って、種類ごとに分けた。

たくさん捕れたのはオタマジャクシ、シマドジョウ、ツチガエル、ウグイの幼魚、アメンボウなどで、指標生物ではカワゲラ、ナガレトビケラ、ヤマトビケラ、ヘビトンボ、サワガニ、ナミウジムシ、コオニヤンマが捕獲された。

集計表にこれらの生きものを記入して水質を判定した結果、水質階級Ⅰが9ポイント、Ⅱが2ポイントだったので、今年もこの川の水質は「水質階級Ⅰ」と判定された。

最後に受付テントの前で集合写真を撮って解散した。

こうして、多くの参加を得て、また誰一人怪我や熱中症の発病がなく終了することができ、とりわけ子どもたちの生き生きした表情に出会えたことが嬉しかった。

そして、今年も応援に駆けつけて下さったNPO法人環境カウンセラー千葉県協議会の皆さんに感謝申し上げたい。



[開催報告]

水環境体験教室(野田市)

2019年8月31日

「みずかんきょう たいけんきょうしつ」(主催:野田市土木部下水道課)を、令和元年8月31日(土)に野田市役所会議室において開催しました。

テーマ:「水の環境を考えてみましょう」

講師: NPO 法人 環境カウンセラー千葉県協議会 水環境対策センター長 上口 清彦

副講師: 同 水環境対策副センター長 井町 臣男

野田市での開催は、昨年に続き2回目。子供から大人まで多くの方に参加していただき、水環境について学び、そして具体的な実験を体験していただく受講者参加型の講習会です。今回、親しみやすい講習会のイメージでタイトル名を「ひらがな」にした効果もあって、子供4名を含む総勢約30名が受講。

講習会は野田市役所渡邊係長より水環境体験教室の概要説明後、上口講師の経歴・実績紹介と井町副講師の紹介があった。その後、上口講師がシワポイントを活用し、水の性質、水の循環、水の惑星地球、家庭での1日水使用量、生活排水のBOD負荷、水を浄化する微生物、浄化槽の仕組み、下水処理場、浄水槽の清掃などについて、受講者と対話しながらか前半の学習を終えた。

続いて体験実習では、①各種ペーパーの水への分解、②お皿の味噌汚れ対策、③コーラ他5種類のpH測定、④残留塩素測定、⑤透視度測定を受講者に体験して頂いた。

最後は、展示した浄化槽「ミニカットモデル」(透明アクリル製)の周りに集まり、入り口から出口まで実際に水の流れを見ながら浄化槽の仕組みについて学習。

今回の体験学習では、受講された方々の浄化槽についての認知も得られ、内容の深いイベントとすることができた。

最後に、この度の講習会開催及び当日の準備・後片付けに多大なるご尽力を賜りました野田市土木部下水道課、皆川課長殿ほか、関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。(文責・井町 臣男)



【環境マネジメントシステム支援センターの活動】

環境マネジメント支援センターでは、環境経営に取り組む企業や団体に対し、環境マネジメントシステム「エコアクション21」や「ISO 14001」、「ISO 9001」)の導入・運用の支援事業に取り組んでおります。

この一環として、千葉県環境財団様または千葉商工会議所様と共催で毎年次のセミナー、講座を行っています。

- | | |
|--------------------------|-------------------------------------------|
| I. エコアクション21普及セミナー | 2019年7月17日(水) |
| II. 企業環境セミナー | 2019年11月13日(水) |
| III. ISO 14001 内部監査員養成講座 | 2019年5月21・22日(水・木)
2019年9月18・19日(水・木) |
| IV. ISO 9001 内部監査員養成講座 | 2019年6月19・20日(水・木)
2019年10月16・17日(水・木) |

2020年度も同要領での開催を計画しています。(会場はいずれも千葉商工会議所14階ホール)

これまでの実施報告および今後の開催案内はEC千葉ホームページをご覧ください。

[講師派遣・講演依頼]

I. 講師：環境学習センター 佐藤ミヤ子

II. 派遣日、派遣先、テーマ

(1) 2019. 4. 6：市原市辰巳公民館（参加者 46 名）、

テーマ：「毎日の暮らしから考える食品ロスとその影響」

(2) 2019. 7. 10：市原市牛久集会場（ひまわりの会 10 名）

テーマ：「環境についての学び」

[市原市まちのせんせい制度での講師派遣依頼]

(3) 2019. 9. 18：茂原市市役所市民室（約 60 名）、

テーマ：「食品ロス」

[茂原市クリーンリサイクル推進委員会からの講演依頼]

(4) 2019. 12. 5：野田市関宿中央公民館、「食品ロス」の講演



市原市辰巳公民館での講座の様子



〈 講演の記 〉

佐藤 ミヤ子

1. 2019. 4. 6：市原市辰巳公民館（参加者 46 名）

「毎日の暮らしから考える食品ロスとその影響」

2. 2109. 7. 10：市原市牛久集会場（ひまわりの会 10 名）「環境についての学び」

今回、参加者と共に学ぶこの二つの機会をいただきました。

しかし、だいぶ時が経っていて私の中の記憶が薄らいできています。その中で心に残っている事を中心に少しだけその足跡を辿ってみたいと思います。

1. の参加者は、40代～80代後半と幅広く、一割強の男性も参加。

その参加者の状況を見て、わっどうしよう！と。

先ず、幅広い年代層に戸惑いました。案の定、最初からその危惧が現実になってしまった場面。1人2～3分程の自己紹介をお願いしたのですが、いくつかのグループでは特定の男性の独演会になりつつありました。

まさに「わっどうしよう！」が起こっていたのです。

それからの私は、選択肢のあまりない頭をフル回転！そのグループを回りながら、何とか前に進めていただくことに必死でした。

“あ～あ、こんなはずじゃなかったのに”と、もう一人の私の弦き聞こえるようでした。これまでに何度も、いろんな所で、いろんな方々と一緒に学ばせていただきましたが、まだまだ体験していないことがあったことを感じさせられた時間でした。

グループ活動を中心にしたプログラムを考えていたのですが、80代後半の男性もおられる年代の方に同じ方向を向いていただくことは思ったより大変でした。… まだまだですね …。

それでも、みなさんに助けをいただきながら、それぞれの感想とともに会を終了、笑顔で帰途についていただけました感謝の半日でした。

2. もまた、私にとっての初体験オンパレードの時間だったのです。

先ず、会場が6畳一間（8畳はなかったように記憶しています）、文字通りの仲間が集い合う学びの場でした。パワーポイントなど使えませんので、コピー画像を手に行間に現象説明を織り交ぜての集会場でのひと時。

でも、そこに集まってくださった方々からは、起こっている事をちゃんと捉えようとする目と姿勢が感じられ、“本来の啓発活動ってこういうことではないのか”と改めて思いました。

台風21号の豪雨被害のニュースが流れ心を痛めています、でも、この方々ならきっと、力を合わせ負けずに前を向いて進んでおられる、そう思っています。

最新の活動

エコメッセ 2019 in ちば

10月20日(日) 10:00~16:00

幕張メッセ国際会議場

第24回「エコメッセ 2019 in ちば」に参加しました。
 今年は、「みんなで取り組むSDGs」をテーマとして開催され、
 公式入場者10,500名で、盛況なイベントとなりました。

EC千葉は、① EC千葉活動紹介パネルの展示

- ② 呼気の中の二酸化炭素測定の体験
- ③ アンケート形式による地球温暖化に関する説明
- ④ 緑のカーテン用種子(ゴーヤ、アサガオ)の配布

を行い、呼気の中の二酸化炭素測定には60名の方が参加され、
 地球温暖化に関するアンケートには25名の方に回答していただきました。

呼気の中の二酸化炭素測定の体験



新入会員紹介

末松 大司 (すえまつ だいじ) 千葉市

私は、学生時代から20代にかけて、いくつかの環境NGOの運営に関わってきました。主に各団体とのネットワーク作りが主体でした。現在は、環境測定分析や品質管理・研究試験に従事しております。また、環境汚染対策としてセメント系固化材の販売や、関連会社では、環境分析等の仲介を行う会社の運営をしています。今後、お世話になることも多いかと思いますが、よろしく願いいたします。

中村 仁 (なかむら ひとし) 大網白里市

2017年に横浜市から大網白里市に引越して参りました。何か地元のためにと、2017年4月より千葉県地球温暖化防止活動推進員となりました。さらに6月よりボランティア団体「エコマリン大網」を立ち上げ、その活動のため、2018年10月にうちエコ診断士となりました。うちエコ診断士として活動するため、2019年9月にEC千葉に入会させて頂きました。

一方で、国立研究開発法人海洋研究開発機構に勤務しております。よろしく願い致します。

総務部からのお礼

2019年7月~10月の間に下記の方から
 当協議会へご寄付いただきました。
 ありがとうございました。

長田 彰 様 4,000円
 志澤達司 様 11,476円

台風災害関連情報提供のお願い

台風15, 19, 21号による大規模災害に関して身近で
 体験したことや教訓、今後のEC千葉の活動に対する
 提案などを募っています。

次のアドレスへメールでお送り願います。

taihu-joho-teikyo@ecchiba.sakura.ne.jp

広報 環境カウンセラーちば 第56号 (発行日 2019年12月15日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (責任者：広報部長 見並勝佳)
 (編集担当：服部達雄)

事務局：〒267-0061 千葉市緑区土気町1584-76

(Tel & Fax) 043-295-2655 (E-mail) ecchiba-jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp

(URL) <http://ecchiba.sakura.ne.jp/>

<年会費等の振込先> 郵便振替口座 00110-5-34692

(加入者名 NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会)